

A会場 5/26(土) 午前

講演時間	講演タイトル	講演者の氏名・所属	
9:00-9:15	アクシーブ®のコムギに対する選択性メカニズムの解析	種谷 良貴	クミアイ化学工業
9:15-9:30	多剤抵抗性タイヌビエにおけるジクロホップメチル抵抗性に関与する新規P450遺伝子の探索	須田 宏栄	京都大学
9:30-9:45	リガンド作動性Cl ⁻ チャンネル変異体におけるフルラネルの活性	山藤 康平	島根大学
9:45-10:00	ヒトスジシマカで初めて見出された強いピレスロイド剤抵抗性集団と作用点変異	葛西 真治	国立感染症研究所昆虫医科学部
10:00-10:15	愛知県におけるジイミド系およびその他3種殺虫剤に対するハスモンヨトウの薬剤感受性の動態、地域間差および薬剤間相関性	平野 忠美	JAあいち経済連営農支援センター
10:15-10:30	スピノサド抵抗性のヒラズハナアザミウマで見つかったnAChR $\alpha 6$ サブユニットのアミノ酸変異	園田 昌司	宇都宮大学
10:30-10:45	Dieldrin抵抗性イエバエ(OCR系)の非競合性GABAアンタゴニスト活性に対する交差抵抗性	田中 啓司	近畿大学
10:45-11:00	国内産イネ紋枯病菌のQoI剤感受性	石井 英夫	吉備国際大学
11:00-11:15	ルミネックス法を用いた複数遺伝子の殺菌剤耐性変異の同時検出	藤村 真	東洋大学
11:15-11:30	複数の天然物を用いた赤かび病防除及びかび毒低減化技術	西内 巧	金沢大学

A会場 5/26(土) 午後

講演時間	講演タイトル	講演者の氏名・所属	
13:15-13:30	幼若ホルモンセンサーを用いた昆虫成長制御剤の探索	塩月 孝博	島根大学生物資源科学部
13:30-13:45	標的の活性化に関わるオカラミンの構造因子	野口 晃	近畿大学農学研究科応用生命化学専攻
13:45-14:00	オクトパミン受容体およびチラミン受容体に対する殺虫性精油の作用性	太田 広人	熊本大学大学院自然科学研究科
14:00-14:15	アーバスキュラー菌根菌が植物に誘導する病害抵抗性のメカニズムの解析	藤田 萌香	福井県立大学
14:15-14:30	プロゲステロンによるストリゴラクトン生合成制御	伊藤 晋作	東京農業大学

A会場 5/27(日) 午前

講演時間	講演タイトル	講演者の氏名・所属	
9:00-9:15	殺菌剤イソプロチオランの根伸長促進効果の組織学的解析	草島 美幸	福井県大・生資
9:15-9:30	新規殺菌剤ピカルブトラゾクスに関する研究(第7報) 卵菌類に対する作用機序研究 第1報	池田 庸二	日本曹達株式会社
9:30-9:45	新規殺菌剤ピカルブトラゾクスに関する研究(第8報) 卵菌類に対する作用機序研究 第2報	藤井 孝行	日本曹達株式会社
9:45-10:00	全ゲノム解析手法に基づく抗真菌性化合物Tolnifanideの作用点の同定	重吉 沙衣	滋賀県立大学・大学院 環境科学研究科
10:00-10:15	ミトコンドリアADP/ATP 輸送体の新規阻害剤エポキシシクロヘキセンジオン類の作用機構研究	青山 綾希	京都大学農学研究科
10:15-10:30	ミトコンドリア呼吸鎖複合体-Iのユビキノ結合ポケットの構造特性	村井 正俊	京都大学大学院農学研究科 応用生命科学専攻
10:30-10:45	新規殺ダニ剤ピフルブミドに関する研究(第10報) -ハダニ体内のTCAサイクル関連有機酸含量に対するピフルブミドの影響- ターゲットメタボロミクスの手法を用いた解析-	中野 元文	日本農薬株式会社
10:45-11:00	ニコチン性アセチルコリン受容体に対するネオニコチノイドのアゴニスト活性における隣接 α サブユニットの役割	疋田 麻衣	近畿大学大学院
11:00-11:15	γ および α -BHC骨格にフッ素原子あるいは塩素原子が付加した化合物のGABAアンタゴニスト活性	田中 啓司	近畿大学
11:15-11:30	貯蔵糖代謝阻害による根寄生雑草防除法の開発	岡澤 敦司	大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科

B会場 5/26(土) 午前

講演時間	講演タイトル	講演者の氏名・所属	
9:00-9:15	新奇農薬デザインの合成ツール:SF5およびSF4化合物の合成	柴田 哲男	名古屋工業大学
9:15-9:30	HFC23を使用したトリフルオロメチル基導入反応	柴田 哲男	名古屋工業大学
9:30-9:45	新規殺菌剤ジクロベンチアゾクスに関する研究-合成と生物活性-	永田 俊浩	クマイ化学工業創薬研究センター
9:45-10:00	新規殺菌剤ジクロベンチアゾクスに関する研究-イネいもち病防除効果-	寺田 壮志	クマイ化学工業株式会社
10:00-10:15	植物の「三重反応」を誘導する蛍光プローブの合成と利用に関する研究	王 敬銘	秋田県立大学
10:15-10:30	CYP90s遺伝子突然変異体を用いたYCZ蛍光プローブの作用機構解析	富尾 冴	秋田県立大学
10:30-10:45	ストリゴラクトン受容体アンタゴニスト carba-SLsの創出	竹内 純	静岡大学
10:45-11:00	ストリゴラクトン受容体共有結合型阻害剤の開発とストライガ種子発芽抑制活性の評価	新山 瑠璃	東大院農生科・応生化
11:00-11:15	ジベレリンシグナリング制御剤の開発とその応用	姜 凱	東大院農生科・応生化
11:15-11:30	Ames変異原性予測ソフトウェアの開発	澤田 敏彦	岐阜大学地域科学部

B会場 5/26(土) 午後

講演時間	講演タイトル	講演者の氏名・所属	
13:15-13:30	アントラニルアミド誘導体の合成と殺虫活性-新規殺虫剤シクラニプロールの創製-	中元 健一	石原産業
13:30-13:45	含フッ素置換基を有するイミダクロプリド類縁体の合成および生物活性評価	松原 祐佳	愛媛大学農学部
13:45-14:00	不飽和結合を有する置換基または含フッ素置換基をもつイミダクロプリド類縁体の受容体親和性とCoMFA解析	釘屋 敦基	愛媛大学大学院農学研究科
14:00-14:15	テトラヒドロキノリン型脱皮ホルモンアゴニストの構造活性相関	横井 大洋	京都大学大学院農学研究科
14:15-14:30	動物細胞HEK293Tを用いた幼若ホルモン様活性化合物の定量的活性評価系の確立および、in silicoスクリーニングによる新規化合物の探索	中川 好秋	京都大学
14:30-14:45	脱皮ホルモンアゴニストのIn silicoスクリーニング	宮川 恒	京都大学

B会場 5/27(日) 午前

講演時間	講演タイトル	講演者の氏名・所属	
9:00-9:15	モスアイ構造による昆虫の滑落－新規な害虫の行動制御基材－	森 直樹	京都大学大学院農学研究科
9:15-9:30	モモシクイガに対する炭酸カルシウム水和剤の産卵阻害活性	風間 春奈	京都大学大学院農学研究科
9:30-9:45	サイロ空間部投薬循環方式によるリン化アルミニウムくん蒸技術	高橋 正和	一般社団法人日本くん蒸技術協会
9:45-10:00	カーバムナトリウム塩液剤によるニラのネダニ類の防除	清遠 亜沙子	高知県農業技術センター
10:00-10:15	エンドルナウイルスが感染した本邦産アスパラガス疫病菌の薬剤感受性	内田 景子	東京農工大学連合農学研究科
10:15-10:30	ダクト利用常温煙霧のキュウリへの付着状況	荒井 雄太	一般社団法人日本植物防疫協会茨城研究所
10:30-10:45	イネばか苗病用生物防除資材候補非病原性 <i>Fusarium oxysporum</i> W5 の製剤化と適用拡大の検討	齊藤 大幹	東京農工大学大学院連合農学研究科

C会場 5/26(土) 午前

講演時間	講演タイトル	講演者の氏名・所属	
9:00-9:15	LC-MS/MSによるriccionidin Aの分析	謝 肖男	宇都宮大学
9:15-9:30	イネに潜伏感染するエンドルナウイルスが宿主の生長や2,4-D耐性に与える影響	井村 友英	農工大院農
9:30-9:45	きのご糞菌床抽出物によるイネの防御応答の誘導	石原 亨	鳥取大学
9:45-10:00	イネにおけるイソペンチルアミンの生合成	網干 貴子	山形大学
10:00-10:15	イネフィトアレキシンであるモミラクソンAのイネ病原真菌による代謝	隠塚 修平	茨城大学農学部
10:15-10:30	ヤーコン由来セスキテルペンラクトン類の昆虫摂食阻害活性発現に関係する化学構造因子	森本 正則	近畿大学農学部
10:30-10:45	トウモロコシ根の摩砕液におけるカウラレキシンの急速な産生	鶴嶋 鉄	阪南大学流通学部
10:45-11:00	微生物防除に使えるセスキテルペン高度合成系構築のための <i>Trichoderma virens</i> PS1-7株遺伝子改変の試み	三又 一泰	北海道大学大学院
11:00-11:15	<i>Burkholderia plantarii</i> のトロポロン生成亢進因子の探索とトロポロン含有量が増大した培養物の殺草力の検定	橋床 泰之	北海道大学大学院農学研究科
11:15-11:30	ベタニンの中心子(ナデシコ)目植物生体防御物質としての可能性検証	薬師 葉	北海道大学

C会場 5/26(土) 午後

講演時間	講演タイトル	講演者の氏名・所属	
13:15-13:30	アズキ落葉病菌の生産する植物毒素	三反崎 拓也	東京農工大学大学院農学府
13:30-13:45	北アフリカ棲息種サソリ <i>Buthacus leptochelys</i> の毒液の成分分析および殺虫性ペプチドの探索	義本 裕介	京都大学大学院農学研究科
13:45-14:00	青枯病菌の走化性誘引物質の探索(第七報)	長谷川 琢也	東京農工大学連合農学研究科
14:00-14:15	青枯病菌 <i>Ralstonia solanacearum</i> MAFF211479株が産生するralstoamide類の単離・構造決定	小松 頌子	大阪府立大学大学院
14:15-14:30	青枯病菌クオラムセンシング機構を阻害するアンタゴニストの創製	坂田 恵	大阪府立大学
14:30-14:45	真菌資化性細菌 <i>Collimonas fungivorans</i> Ter331株が産生するcollimonin類の構造決定と生物活性	甲斐 建次	大阪府立大学

C会場 5/27(日) 午前

講演時間	講演タイトル	講演者の氏名・所属	
9:00-9:15	6位が置換された5,6-dihydro- α -pyroneの立体構造と植物生長調節活性との関係	越智 良太	愛媛大院農
9:15-9:30	(-)-Arctigeninの2つのベンゼン環上の置換基が昆虫細胞Sf9に対する細胞毒性に与える影響	西本 明日香	愛媛大院農
9:30-9:45	テトラヒドロフラン型リグナンの立体構造が植物病原性カビに与える影響	神野 公哉	愛媛大院農
9:45-10:00	1,4-ベンゾジオキサン環を有する幼若ホルモンアンタゴニストの合成と生物活性	古田 賢次郎	島根大学
10:00-10:15	新規殺ダニ剤アシノナピル(ダニオーテ)に関する研究(第1報) -アシノナピルの殺ダニ活性-	清野 宏行	日本曹達株式会社
10:15-10:30	新規殺虫剤フルキサメタミド(グレーシア [®])に関する研究(第四報)ミツバチ選択性	旭 美穂	日産化学工業株式会社
10:30-10:45	タマネギベと病全身感染株の発生抑制に有効な殺菌剤	田代 暢哉	佐賀県上場営農センター
10:45-11:00	新規植物免疫活性化剤候補化合物の作用機構の解析	北畑 信隆	東京理科大・理工
11:00-11:15	オーキシン・ブラシノステロイド信号伝達同時制御剤耐性株の選抜	田中 ナイヤネート	東京大学大学院農学生命科学研究科応用生命化学専攻

D会場 5/26(土) 午前

講演時間	講演タイトル	講演者の氏名・所属	
9:00-9:15	ゼロ価鉄ナノ粒子を用いたPOPs等難分解性有機化合物の還元的脱塩素分解技術の開発	高木 和広	国研)農研機構・農業環境変動研究センター
9:15-9:30	ウリ科植物内生細菌によるDDTs分解	アフメッド マフムド	山梨大学
9:30-9:45	α -BHC-F付加類縁体の合成とそれらの代謝	田中 啓司	近畿大学
9:45-10:00	Fate and transport of neonicotinoids and fipronil in upland field under simulated rainfall condition	ヤダブ イシュワール	東京農工大学
10:00-10:15	新規殺虫剤フルキサメタミド(グレーシア)に関する研究(第五報)動物代謝	山岸 由和	日産化学工業株式会社
10:15-10:30	新規殺虫剤フルキサメタミド(グレーシア)に関する研究(第六報)環境動態	草苺 啓	日産化学工業株式会社
10:30-10:45	新規除草剤フェンキトリオンの水中光分解動態に関する研究	宇佐美 智巳	クミアイ化学工業株式会社
10:45-11:00	[¹⁴ C]2,4-dichlorophenolメチル化代謝物はキュウリ幼植物根部で生成・滲出される	上田 洸平	一般財団法人残留農薬研究所
11:00-11:15	大気中クロルピクリン濃度評価のための土壌くん蒸圃場からの大気移行フラックス評価方法の検討	小原 裕三	農研機構 農業環境変動研究センター
11:15-11:30	スイカ生産現場における広域の大気中クロルピクリン濃度	山本 幸洋	千葉県農林総合研究センター

D会場 5/26(土) 午後

講演時間	講演タイトル	講演者の氏名・所属	
13:15-13:30	フィプロニル及びその代謝物のアキアカネ類幼生に対する感受性	大津 和久	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構
13:30-13:45	パッシブサンプリング法とグラブサンプリング法とによる河川水中の農薬の分析結果の差異に関する考察	矢吹 芳教	大阪府立環境農林水産総合研究所
13:45-14:00	流域スケール農薬動態予測モデルPCPF-1@SWAT2012の改良と検証	渡邊 裕純	東京農工大学
14:00-14:15	無人ヘリコプターで散布されたアセタミプリドの飛散と周辺住民への健康影響の可能性	本山 直樹	東農大総研
14:15-14:30	高所作業車を用いてマツに散布された殺虫剤の作業員曝露	阿部 智早絵	(株)化学分析コンサルタント
14:30-14:45	高脂溶性汚染物質によって引き起こされる作物汚染の化合物輸送因子を標的とした農薬による低減化	藤田 健太郎	神戸大学大学院農学研究科

D会場 5/27(日) 午前

講演時間	講演タイトル	講演者の氏名・所属	
9:00-9:15	施設キュウリにおける栽培方法の違いが農薬の残留濃度に及ぼす影響	成田 伊都美	埼玉県農業技術研究センター
9:15-9:30	ブドウ試料の均一化および秤取操作が残留分析結果に与える影響	矢島 智成	一般財団法人残留農薬研究所
9:30-9:45	サロゲート法による作物中のネオニコチノイド系農薬の一斉分析	伴野 有彩	大阪府立環境農林水産総合研究所
9:45-10:00	奈良県における堆肥中のクロピラリド濃度実態について	西川 学	奈良県農業研究開発センター
10:00-10:15	LC-MS/MSによる牛ふん堆肥中クロピラリドの高感度分析法の確立	渡辺 栄喜	農研機構 農業環境変動研究センター
10:15-10:30	農薬の後作物残留リスク評価に関する研究 第15報 ほ場試験によるコマツナの土壌中農薬の吸収性評価 その2	清家 伸康	農研機構 農業環境変動研究センター
10:30-10:45	農薬の後作物残留リスク評価に関する研究 第16報 黄色土ほ場における水抽出農薬の減衰傾向	望月 証	兵庫県立農林水産技術総合センター
10:45-11:00	農薬の後作物残留リスク評価に関する研究 第17報 灰色低地土ほ場における水抽出農薬の減衰傾向	島本 文子	高知県農技セ
11:00-11:15	農薬の後作物残留リスク評価に関する研究 第18報 砂丘未熟土における水抽出農薬の減衰傾向	田中 昭人	徳島県立農林水産総合技術支援センター
11:15-11:30	農薬の後作物残留リスク評価に関する研究 第19報 葉菜類を対象とした農薬の後作物残留濃度予測モデルの開発	稲生 圭哉	農業・食品産業技術総合研究機構 農業環境変動研究センター